

沖縄は、苛烈な沖縄戦やアメリカによる占領・統治下の時代（アメリカ世）を経て、50年前の1972年5月15日に日本に復帰しました。沖縄の風景と共に写る人々の服装の移り変わりは、時代の流れを映し出しているといえるかもしれません。

戦前

戦前の那覇市の風景です。賑わう那覇東町市場や鉄道駅の利用客を見ると、琉装・和装姿の人々がほとんどです。



戦前の那覇東町市場 那覇市歴史博物館 提供



鉄道の利用客 澤岬 勝雄氏 所蔵 那覇市歴史博物館 提供



女学生の服装の変遷を示す記念写真

源ゆき子 所蔵 那覇市歴史博物館 提供

写真右から明治31、2年頃の服装は、生徒達も琉装でした。次は明治34年頃で、琉装から和装に進んでいますが、帯を締めただけです。三番目は明治37、8年～大正初期までで、エビ茶色の袴を着用しています。四番目は大正時代で、和服に袴を改良したものです。

戦後

戦後から現代までの年代順の風景です。終戦間もない時期の人々の服装には和装姿も見えますが、徐々に洋装に移っていき、復帰前後には洋装姿の人々しか写っていません。



ライカム補給部隊の将校夫人クラブから洋服の寄贈（1956年） 所蔵：沖縄公文書館



お祭りを楽しむお年寄り（1959年） 所蔵：沖縄県公文書館

なか ゆくい

NAKAYUKUI



〜オキナワ懐かしの風景（服装編）〜



大越百貨店(沖縄三越の前身)前 クリスマス歳暮大売出し
(1960年) 所蔵:沖縄県公文書館



賑わう那覇中央市場(1961年)
所蔵:沖縄県公文書館

復帰前後



初めての県知事選(屋良候補の街頭遊説)(1968年)
所蔵:沖縄公文書館



復帰後の公設市場の買い物客(1974年)
所蔵:沖縄公文書館

かりゆしウェアの普及

「かりゆしウェア」は、復帰の2年前、社団法人沖縄観光連盟(会長:宮里定三)が、アロハシャツに負けない、沖縄らしいウェアを作ることを目的に、「おきなわシャツ」を一般公募したのが始まりでした。

2000年の九州・沖縄サミットにおいて各国首脳が着用したことで、以後急速に普及し、現代では県民服といえるほど普及しています。クールビズの浸透に伴って、沖縄だけではなく全国でも認知度が高まっています。

まだまだ暑い季節が続きますが、着ている人はもちろん見た目にも涼しい、かりゆしウェアで快適に過ごしてはいかがですか。



◀全閣僚がかりゆしウェアを着用するかりゆし閣議
(令和4年6月7日)
出典:内閣府ホームページ

◀G8首脳会議の合間に、サミットのために作られた「かりゆしウェア」を着てリラックスする各国首脳=2000年7月22日、名護市・万国津梁館
沖縄タイムス社 提供